

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宝木中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 120人 国語B 121人

② 数学A 121人 数学B 121人

5 留意事項

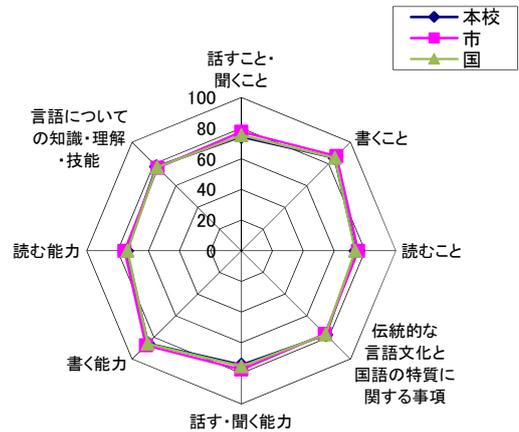
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宝木中学校第3学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

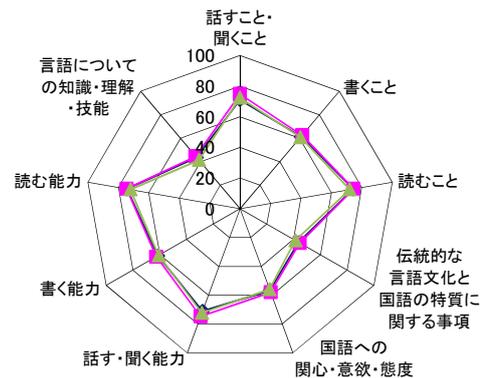
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	74.4	77.6	75.4
	書くこと	85.6	87.3	85.7
	読むこと	74.2	75.6	73.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.6	76.6	77.2
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	74.4	77.6	75.4
	書く能力	85.6	87.3	85.7
	読む能力	74.2	75.6	73.8
	言語についての知識・理解・技能	77.6	76.6	77.2



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	71.1	74.8	72.4
	書くこと	61.4	62.6	60.8
	読むこと	74.4	74.6	72.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	43.8	44.7	41.4
観点	国語への関心・意欲・態度	56.7	58.0	55.9
	話す・聞く能力	71.1	74.8	72.4
	書く能力	61.4	62.6	60.8
	読む能力	74.4	74.6	72.1
	言語についての知識・理解・技能	43.8	44.7	41.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

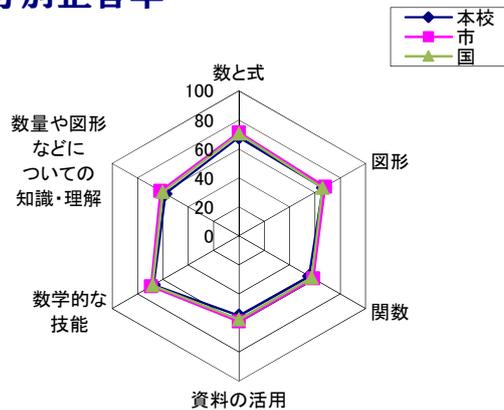
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●市、国の平均よりやや下回る状況である。 ○話すこと、聞くことに対する意欲と態度は身につくつつある。 ●話をすること、話を聞くこと、のポイントのとらえ方が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●意欲と態度が身に付きつつあることは良い傾向である。「話す・聞く」の単元の指導を強化し、ポイントを絞ってわかりやすい授業を行う。 ●長期休業明けに一分間スピーチを取り入れ、話題の提示から、自分の意見や考えを述べるパターンを指導し、学習内容に取り入れる。 ●聞くときにメモをとらせ、5W1Hを聞き取る基本的な学習内容を取り入れて指導を行う。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○市の平均よりは下回るものの、国の平均と同じくらいの状況である。 ●無解答は減ったものの、「作文が書けない」という意識が強く、パターンを教えても「苦手だからできない」という生徒が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ●「書くこと」の単元の指導を強化し、さまざまな意見文の書き方のパターンを指導し、丁寧に指導を行う。具体的には、以下のように具体的な書くことの技術指導を行う。 ①構成を意識せずに、短い文を書かせ、書くことの抵抗を和らげる指導を行う。 ②「自分の考え 明確な根拠 まとめ」の3段落構成を基本として、構成を意識した文章を書かせる。 ③誰が読むのかという相手を意識した文章を書かせる。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○市の平均よりは下回るものの、国の平均よりは高い状況である。 ●説明的文章の読解が苦手な生徒が多く、無解答も多く見られる。 ●説明的文章の読解が苦手な生徒が多く長文を読むだけで精一杯で、ポイントが絞れずさらにわからなくなるという悪循環が起きている。 ○小説などの読解は平均的である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●文章読解のポイントを絞り、ドリル形式で授業に取り入れる工夫をした授業を行う。 ●内容を比べながら文章を読み、自分の意見や立場をはっきりさせた読み取りを授業で行う。その課程を積み重ねることにより、批判的読解力を育成する。 ●小説などの、心情を追うことは好きな生徒が多いので、伏線に気をつけて読み取らせるなど、テスト問題を意識した読み取り方も指導を強化する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○市、国の平均よりも高い状況である。 ●語彙力が低く、言葉を的確に使うことができない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●語彙力を定着させるために、ほぼ毎日漢字ノートを課題として出しているのを、さらに定着を確認するための定期的なテストを実施していく必要がある。(現在よりも増やして確認をする) ●語彙力を高めるために、ことわざや慣用句、文法などの単元では、特に丁寧に指導を行い、個別指導にも力を入れていく。

宇都宮市立宝木中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

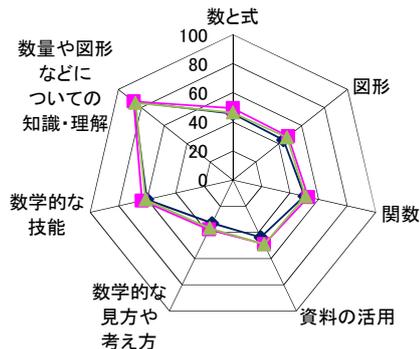
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	68.0	71.4	70.4
	図形	66.4	67.9	66.0
	関数	55.5	58.6	57.4
	資料の活用	55.0	58.9	57.6
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	67.4	69.3	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	58.1	61.9	60.2



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	45.5	49.4	46.3
	図形	44.1	48.3	47.1
	関数	50.1	52.7	50.8
	資料の活用	43.8	49.0	49.1
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	33.0	37.8	36.8
	数学的な技能	60.3	63.7	61.2
	数量や図形などについての知識・理解	86.0	86.7	85.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<ul style="list-style-type: none"> ●市、国の平均よりも低い状況である。 ○正負の数の基礎的な計算力が身につけてきている。また、文字と数の区別が付き、文字と式の計算についても基礎的な計算力が身につくつある。 ●分数を含む計算や、自ら立式し目的に応じて式を変形する問題に対して課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分数を含む計算の機会を増やし、計算方法に慣れさせていく必要がある。また、誤答例を取り上げ、計算過程を振り返りながら、どこに誤りがあるかを見出し、正しい計算の仕方を確認する。 ・立式の手順を考え、その手順を考察する活動を取り入れる。また、意図した結果が得られなかった場合には、どこを修正すればよいのかを振りかえることで、解の吟味の有用性を確認する。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ●市の平均よりも低く、国の平均と同じくらい低い状況である ○線対称・点対称といった言葉の意味の定着は図られている。また、求積する際の基本的な公式は身につけている。 ●空間的なもの見方に課題が見られる。ねじれの位置を考えたり、回転体の表面積、体積を求めることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空間図形について、見取図のみの考察で終わるのではなく、身近な立体を見たり、実際に触れたりしながら、様々な方向や視点から空間図形を観察し、辺や面の位置関係を理解できるようにする。 ・回転体や複雑な立体の求積の指導に関しては、その図形が成り立つ場面をコンピュータ等を活用し見せることで、知っている立体の組み合わせになっていることを理解させたい。
関数	<ul style="list-style-type: none"> ●市、国の平均よりも低い状況である。 ○数の変化から比例の関係になっているのか、反比例の関係になっているのかを判断する力は身につくつある。 ●文字を使って式に表したり、グラフにすることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伴って変化する2つの数量が何かを確認する作業を通し、文章題から変化の仕方に気づき、式を立てる練習をする必要がある。 ・グラフの特徴と式を関連付けて考察する場面を設定し、グラフからxとyの関係を式で表すことができるよう、繰り返し練習する。
資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> ●市、国の平均よりも低い状況である。 ○度数や平均を求める技能は身につけている。 ●相対度数や階級値といった用語の意味と求め方の定着が図られていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生となり学習した用語についての理解が不十分であった。練習不足が原因である。学習してからの期間の間に十分な演習量を確保できるように、授業を計画し確実な理解と定着が図れるようにしていく。

宇都宮市立宝木中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。93.9% (県より6.8ポイント高い)
- 先生は学習のことについてほめてくれる。81.7% (県より9.9ポイント高い)
- 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。52.2% (県よりも13.2ポイント高い)
- クラスは発言しやすい雰囲気である。80.9%
- 家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。63.5% (県よりも6.0ポイント高い)
- 国語の学習が好き。81.4% (県よりも14.1ポイント)
- 将来のために、保健体育は大切だと思う。84.3% (県よりも5.5ポイント高い)

上記のことが、ポイントの高い主な項目である。日常生活や学習など学校生活をみていると、ほとんどの生徒は大きな問題を持ったり、起こしたりすることもなく、比較的明るい学校生活を送っている。学級や教師との人間関係も良い方向に向いているように感じる。

家庭での過ごし方や保護者との関係、特に学習への取り組みも少しずつだがよくなってきている。学校生活の安定や向上心が今後も継続し、進展するように接していきたい。そのためにも、教師が全体と個に関して各種調査や教育相談、保護者との密な連絡など情報を得るとともに共有でき、活かせる体制をとっていく。

- 自分には、よいところがあると思う。62.6% (県よりも8.5ポイント低い)
- 授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。75.4% (県よりも12.7ポイント低い)
- 授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。44.3% (県よりも17.0ポイント低い)
- 授業で使うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。61.7% (県よりも20.8ポイント低い。)

質問紙の結果や日常の様子から自尊感情を高めることが必要であることがわかる。生徒の関りの中で、良い面をほめる・認めることが現学年には必要である。学級経営・学年経営の中で一人一役や活動の分担など工夫したり、行事や行動面で成就感達成感、善い行い等を意図して状況や場面設定をしていく。また、学習面に関してはまだ、苦手意識や自分ではできないと感じている生徒がいる。教科の好き嫌いもあるようなので、各教科での現状分析をし、克服にむけて工夫していくことと学習の取り組み方について、進路とも関わらせて、基本から再度指導し、実践させるようにする。その際、生徒にもP DCAのサイクルに目を向けさせ、今日より明日への向上が大切であること粘り強く指導する。

宇都宮市立宝木中学校 (第3学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
◎思考力や判断力、表現力等を育成する言語活動の実践	(1)『分かる授業』の推進 ①「本時の目標(めあて、ねらい)」をつかむことのできる明確な提示 ②効果的なノートの活用 ③生徒の考えを引き出し、思考を深められる(主体的に考えられる)発問の工夫 ④話し合い活動の積極的な導入 ⑤「ふりかえり」活動の徹底	●授業では、授業の目標(めあて・ねらい)が示されている87.8% (県93.8%よりも6.0ポイント低い) ●授業で使うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。61.7% (県82.5%よりも20.8ポイント 低い。) ●クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる73.9% (県79.9%よりも6.0ポイント低い) ●授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。75.4% (県よりも12.7ポイント低い) ●授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。44.3% (県61.3%よりも17.0ポイント低い)

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
◎家庭学習ノートの活用など、家庭学習の一層の充実	(2) 家庭学習の習慣化 ①意欲や目的をもって取り組める宿題吟味、工夫 ②自主学習ノートの活用	●学校の宿題は、やりたくなる内容だ。34.8%（県42.2%よりも7.4ポイント低い） ○家で、学校の宿題をしている。96.5%（県94.5%よりも2.0ポイント高い） ○家、で計画を立てて勉強をしている。67.0%（県63.0%よりも4.0ポイント高い） ●家で、学校の授業の予習をしている。42.1%（県43.5%よりも1.4ポイント低い） ●家で、学校の授業の復讐をしている。65.2%（県71.5%よりも6.3ポイント低い） ○家で、テストで間違えた問題について勉強をしている。（県64.9%よりも4.7ポイント高い）

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
(1)『わかる授業』のより一層の推進に向けて ①「本時の目標（めあて、ねらい）」が確実に示されていない。 ②授業で使うノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめが書かれている割合が低い。 ③生徒間の話し合い活動を通じて、考えを深めさせたり、広げさせたりする学習活動が十分でない。 ④授業における、生徒同志の話し合い活動の更なる充実を図る。 ⑤学習内容の十分な振返りが行われていない。	①「本時の目標（めあて、ねらい）」の確実な提示 ②効果的なノートの活用 ③生徒の考えを引き出し、思考を深められる（主体的に考えられる）発問の工夫 ④話し合い活動の積極的な導入 ⑤「ふりかえり」活動の徹底	①毎時間の学習課題に即した「本時の目標（めあて、ねらい）」の提示の習慣付けを行う。 ②教科担任による板書の工夫と、学習の定着を図った効果的なノートの活用法の指導を充実させる。 ③教科担任による教材研究の充実と、「一人一授業」の公開による教師間の学びあいを通した、授業力の向上を図る。 ④各教科担任による話し合い活動の充実だけでなく、学級担任による学級活動の活性化も図る。 ⑤ワークシートやチェックテストなどを活用した、学習のねらいに即した振返りを確実に実施する。
(2)家庭学習のより一層の充実に向けて ①「家の人と学習について話をしている」生徒の割合を、さらに増加させる。 ②予習、復習などの計画的な家庭学習を、より一層充実させる。 ③「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」生徒の割合を更に増加させ、学習内容の効果的な定着を図った復讐を実施させる。	①学習に対する家庭の関心を高める工夫 ②自主学習ノートの点検、アドバイス、賞賛 ③家庭学習の仕方を明示、説明	①三者懇談、教育相談、学校だより、学級だよりなどを活用した学習に関する情報提供を充実する。 ②学級担任による、家庭学習の内容の点検と、コメントの記入等による助言やほめる指導を充実する。 ③教科担任からの復習方法の助言と個に応じた指導を充実する。